

平成30年10月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年10月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

10月20日（土）～11月11日（日）に、八戸市南郷において、「なんごう小さな芸術祭」を開催します。

平成23年に、八戸市南郷地域を舞台にスタートさせた「南郷アートプロジェクト」。「なんごう小さな芸術祭」は、7年かけてこれまで出会った「なんごう」を、表現を通して形にした芸術祭です。

八戸にお越しの際は、ぜひ南郷にもお立ち寄りください。

そばにりんごに、紅葉に。南郷が一番「熟す」この季節。日毎に変わる「今日の南郷」に出会うプログラムをお楽しみください。

■「なんごう小さな芸術祭」の詳細はこちら「市ホームページ」
<http://www.nangoartproject.jp/artfestival/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸10月号 レポート

平成30年9月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	長者中で武蔵野美術大プロジェクト ～教室がアート空間に～
(2)	青森県 防災ハンドブック「あおもりおまもり手帳」作製
(3)	八戸ブックセンター 2017年度入館者数 11万4599人
(4)	麺類塩分調査 青森県内8割は“しょっぱ過ぎ”
(5)	鮫角灯台 18年度の来場者1万人を突破
(6)	「第30回 八戸市景観賞」発表 小久保保育園など4件が受賞
(7)	「八戸市子育て世代包括支援センター」始動 妊娠期から切れ目なくサポート

【産業】

記事	概要
(8)	県特産品コンクール「八戸サバ缶バー」(マルヌシ)が最高賞
(9)	八戸・三日町 地価上昇 県内中心部商業地で唯一
(10)	八戸港コンテナヤード拡張工事完了
(11)	八戸観光コンベンション協会「八戸さんぽマイスター」インバウンド版のガイド育成へ
(12)	横丁の魅力を発信「酔っ払いに愛を2018」開催
(13)	八戸港 道東沖マイワシ 水揚げ好調

【地域】

記事	概要
(14)	八戸学院グループ インターナショナルスクール来春始動へ
(15)	青森県 100歳以上の高齢者 最多の593人
(16)	高校生英語弁論大会 小向さん(ウルスラ3年)が外務大臣賞受賞

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	青森県民駅伝大会 八戸市2年ぶり王座奪還
(18)	常現寺で女優・名取裕子さん朗読公演会 ～情感あふれる語り口で魅了～
(19)	「プレナスなでしこリーグ1部」青森県内初開催
(20)	サッカー元日本代表の北澤豪さんが光星高訪問 部員対象に講演、指導

記事	概要
(1)	<p>長者中で武蔵野美術大プロジェクト ～教室がアート空間に～</p> <p>八戸市立長者中で、黒板に絵を描いて子どもたちを驚かせる「黒板ジャック」が行われた。教室の黒板をキャンバスとした大迫力の美術作品が披露され、何も知らずに登校した生徒の感嘆の声が、校内に響き渡った。これは武蔵野美術大の学生が全国の学校を訪れて授業を行う「旅するムサビプロジェクト」の一環で、市新美術館建設推進室が主催。2020年度の完成を目指し、建設が計画される市の新美術館開館へ向けた学校連携企画として開催。みずみずしい感性を持つ生徒たちは、学生の表現に刺激を受け、身近な存在も作品となるアートへの関心を高めた。</p>
(2)	<p>青森県 防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」作製</p> <p>青森県は9月1日から、災害時の身の守り方や備えなどを分かりやすくまとめた防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」を県内約56万世帯に配布する。最寄りの避難所を書き込む欄や備蓄品のチェックリストなども設け、家族で被災時の対応を共有できる構成にした。また、県内で起こり得る災害の項目では、地震や津波、台風に加え、火山の噴火にも触れている。実際に発生した地震や津波の被害状況の記録も掲載した。作製した県防災危機管理課では「災害時の助けになる一冊。家族らで一読してほしい」と呼び掛けている。</p>
(3)	<p>八戸ブックセンター 2017年度入館者数 11万4599人</p> <p>八戸市中心街に2016年12月にオープンした市営書店「八戸ブックセンター」の17年度の入館者数は計11万4599人で、書籍販売冊数は7143冊だった。開館当初の“特需”は落ち着いた格好だが、入館者数は1カ月当たり7千～1万3千人台で推移。来街者の回遊に一定の効果を上げているのがうかがえる。来館者へのアンケート結果によると、利用者の年齢層はどの年代も偏りなく幅広かった。居住地は市内45.9%、市外54.1%で、中央のメディアで取り上げられたこともあり、青森県外から足を運ぶ人もいたという。音喜多信嗣所長は「今後も陳列方法を工夫したり、企画やイベントを積極的に開催したりしてリピーターを増やすなど、来館者数の増加に向けて取り組みたい」と強調する。</p>
(4)	<p>麺類塩分調査 青森県内8割は“しょっぱ過ぎ”</p> <p>青森県は、2017年度に県内の飲食店を対象に初めて行った麺類塩分調査の結果をまとめた。調査した189品のうち、83.6%の158品でスープ全量の塩分量が、県が採用した参考値（ラーメン4.5グラム、そば・うどん3.0グラム）を超えた。県が成人1日当たりの目標値とする8グラムを超過した麺類も2割に上った。県がん・生活習慣病対策課は「スープは全部飲み切らないようにして」と呼び掛ける。</p>
(5)	<p>鯨角灯台 18年度の来場者1万人を突破</p> <p>八戸市鯨町の鯨角灯台の2018年度来場者数が9月15日、1万人を突破した。節目の来場者となった同市立根城小2年の小軽米奏和さん(8)は「良い景色を見られる灯台が大好きで、10回以上来ている。1万人目になれてびっくりした」と喜んでいた。小軽米さんには、記念品として種差海岸のガイドブックや八戸シーガルビューホテルの食事券、海上保安庁マスコット「うみまる」の縫いぐるみがプレゼントされた。一般公開は13年度から毎年実施。本年度はこれまでで最も早いペースで、1万人を突破した。</p>

(6)	<p>「第30回 八戸市景観賞」発表 小久保保育園など4件が受賞</p> <p>八戸市は9月21日、景観づくりに寄与する事例を表彰する「第30回八戸市景観賞」を発表した。まちなみ空間部門では、周辺の緑豊かな住宅景観に溶け込んだ「小久保保育園」と、従来の小学校とは一線を画すデザインの「市立西白山台小学校」が受賞。景観づくり部門では、植栽の選定や展望デッキなどの配置が素晴らしいとの評価を受けた「更上閣にぎわい広場」と、市街地にありながら水や緑に親しむことができる「三八城公園」が選ばれた。</p>
(7)	<p>「八戸市子育て世代包括支援センター」始動 妊娠期から切れ目なくサポート</p> <p>八戸市は10月1日、妊娠期から産後の子育て期まで継続的な支援を行う「子育て世代包括支援センター」の業務を開始する。センターの設置場所は市庁別館2階の市保健所健康づくり推進課内で、人員は助産師ら34人。妊産婦や乳幼児らが抱える心身の不安や悩みに対し、保健師や助産師が家庭訪問や電話、窓口で相談を受け付けるなどして、妊産婦が安心して出産や育児ができるよう、切れ目のないサポート体制を構築する。</p>

【産業】

記事	概要
(8)	<p>県特産品コンクール「八戸サバ缶バー」(マルヌシ) が最高賞</p> <p>青森県物産振興協会は9月10日、青森市で2018年度県特産品コンクールの表彰式を開いた。コンクールは、開発3年以内で地元産品を使用した商品が対象。今回は県内企業21社から31点の応募があった。最高賞の県知事賞にはマルヌシ(八戸市)の「八戸サバ缶バー」が輝いた。八戸サバ缶バーは八戸前沖さばを使った缶詰で、バーでお酒を選ぶように種類を選べることから、命名した。「津軽海峡の塩」「アヒージョ」など味は6種類。ポップなパッケージは同市で活躍するデザイナーが手掛け、製造も同市で行う“オール八戸”の商品。</p>
(9)	<p>八戸・三日町 地価上昇 県内中心部商業地で唯一</p> <p>国土交通省と青森県が発表した県内地価(基準地価)で、「八戸市三日町4の1」の価格(1平方メートル当たり)が前年より2千円上がり、13万円となった。県内市町村の中心部の商業地で地価が上がったのは同地点のみで、3月に公表された公示地価に引き続き上昇した。他市では郊外の商業地の価格上昇が目立つ中、八戸市中心部の価格が上向きになった背景には、三日町の八戸まちなか広場「マチニワ」整備など市の“集中投資”による中心街再生への期待の高まりがある。</p>
(10)	<p>八戸港コンテナヤード拡張工事完了</p> <p>2014年度から始まった八戸港八太郎2号埠頭のコンテナヤード拡張工事が9月20日までに全て完了した。現在は一部が暫定使用されているが、近く全面供用開始となる予定。年間のコンテナ取扱能力は現在の約5万1千本(20フィート換算)から約6万9千本に増加する。ヤード拡張により同港の利用性向上や貨物量の増加が見込まれ、物流拠点としての強化につながりそうだ。</p>

(11)	<p>八戸観光コンベンション協会 「八戸さんぼマイスター」インバウンド版のガイド育成へ</p> <p>国内で増加する外国人観光客の誘客を推進しようと、八戸観光コンベンション協会が、八戸市中心街などの見どころを市民が案内する「八戸さんぼマイスター」のインバウンド（訪日外国人旅行）版の受け入れ態勢づくりを進めている。八戸さんぼマイスターは市中心街の横丁やJR陸奥湊駅周辺の“穴場”を観光スポットとして発信しようと2017年11月に開始。現在、日本人向けの内容を外国人対応に再構成しながら、ガイド講習を行う予定。中心街コースは本年度、陸奥湊コースは19年度以降の本格実施を目指す。</p>
(12)	<p>横丁の魅力を発信 「酔っ払いに愛を2018」開催</p> <p>八戸市中心街の「横丁」の魅力を発信するイベント「八戸横丁月間 酔っ払いに愛を2018」が10月1日から1か月間にわたって開催される。毎年恒例となっている「横丁オンリーユーシアター」は10月5、6日の開催。横丁の空き店舗や路上を劇場に見立て、9組のアーティストがパフォーマンスを披露する。このほかに新たな催しなども企画しており、実行委員会の関係者は「八戸の横丁やまちの魅力を市民に再発見してもらいたい」とPRしている。</p>
(13)	<p>八戸港 道東沖マイワシ 水揚げ好調</p> <p>八戸港で、巻き網船団が北海道東沖で漁獲したマイワシのまとまった水揚げが続いている。巻き網船団は現在、八戸前沖で操業する船団と、道東沖に分かれている。道東ではマイワシの大漁が続いており、道内でさばき切れない分が八戸にも連日千トン前後、運搬されてくる。9月中旬から揚がり始め、25日は市第一魚市場に運搬船9隻が約2千トンを上場した。魚体サイズも100～120グラムが主体と「まずまずの大きさ」。一方で秋の旬を迎えるサバの水揚げが遅れており、関係者は気をもんでいる。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>八戸学院グループ インターナショナルスクール来春始動へ</p> <p>八戸市の学校法人・光星学院の100%子会社「八戸学院グループ」の大谷真樹社長は、来年4月に中学卒業以上の生徒を対象としたインターナショナルスクール「インフィニティ国際学院」を開校することを明らかにした。世界に通用する人材育成が目的で、入学から修了までの3年間の多くをアジアなど海外で過ごし、語学力や世界的な視点を磨く。各国を旅しながら学びつつ、日本の通信制高校と連携して修了時には高校卒業資格も取得できる日本初の取り組みという。大谷氏は「世界に変化を起こせる人材の育成を目指したい」と力を込める。</p>
(15)	<p>青森県 100歳以上の高齢者 最多の593人</p> <p>青森県は、県内で100歳以上の高齢者は593人(9月15日時点)で、前年同期を8人上回ったと発表した。1963年に統計を始めて以降、14年連続で過去最多を更新した。内訳は男性が56人(前年同期比2人減)、女性は537人(10人増)で、全体の約9割を女性が占めている。県内の最高齢者は、男性が青森市の小笠原末吉さんで107歳、女性は弘前市の葛西萩さんで108歳。</p>

(16)	<p>高校生英語弁論大会 小向さん（ウルスラ3年）が外務大臣賞受賞</p> <p>8月7日に東京で開かれた第38回高校生英語弁論大会に、東北ブロック代表として出場した八戸聖ウルスラ高3年の小向愛莉さん(19)が、外務大臣賞を受賞した。各地区ブロックの代表9人が集まる大舞台で実質の全国1位にあたる。本番では「みんなに思いを伝えたい」と、間や強弱、ジェスチャーに気を付け、「日本社会における文化の多様性を理解して受け入れるためにも、異なる意見にも恐れずに対立していくべきだ」と主張した。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>青森県民駅伝大会 八戸市2年ぶり王座奪還</p> <p>第26回青森県民駅伝競走大会は9月2日、青森市で行われ、八戸市が2年ぶりに総合優勝を果たし、市の部でも王座に返り咲いた。大会コースは、アスパム前から県総合運動公園陸上競技場までの8区間33.8キロ。正午にスタートし、40市町村が健脚を競い合った。八戸市は1、2区で出遅れたものの、続く若い2人が次々とランナーを抜いて、チームを頂点に引っ張り上げた。5区以降は1位の座を他に譲らず、磐石の走りを見せた。この日の青森は最高気温が27度まで上がり、秋晴れの一日。ランナーたちは強い日差しに負けず、郷土の誇りをたすきに託して力走を見せた。</p>
(18)	<p>常現寺で女優・名取裕子さん朗読公演会 ～情感あふれる語り口で魅了～</p> <p>八戸市小中野の常現寺で9月15日、女優名取裕子さんの朗読公演会が初めて開かれた。イベントは「常現寺内陣ライブ」と銘打ち、常現寺の関係者による実行委員会が主催。「本のみち八戸」の推進に向け、市民が文学に親しむ機会づくりや芸能文化の振興、小中野地区の活性化を目的とした。名取さんは、江戸の女性の粋で風雅な恋模様を描いた「江戸艶姿（えどのあですがた）四季写明鏡（しきのうつしかがみ）」を朗読。自作の物語を情感あふれる語り口で披露し、会場の本堂に集まった約400人の観客を魅了した。</p>
(19)	<p>「プレナスなでしこリーグ1部」青森県内初開催</p> <p>女子サッカーの国内最高峰リーグ「プレナスなでしこリーグ1部」第12節・マイナビガルタ仙台レディース-INAC神戸レオネッサの試合が9月24日、八戸市のダイハツスタジアムで行われた。仙台は終盤に獲得したPKで1点を返す意地を見せたものの、現在リーグ2位の神戸が5得点と攻守で圧倒、仙台が1-5で敗れた。おいらせ町出身で神戸のMF伊藤美紀選手もフル出場し、勇姿を披露した。青森県で初めての開催となった同リーグの試合を観戦しようと、会場には県内外から2500人を超えるサッカーファンが訪れ、両チームに熱い声援を送った。</p>
(20)	<p>サッカー元日本代表の北澤豪さんが光星高訪問 部員対象に講演、指導</p> <p>サッカー元日本代表の北澤豪さんが9月25日、八戸学院光星高を訪れ、サッカー部員を対象に講演と部活動指導を行った。この企画は、大塚製薬が実施している「エールプロジェクト」の一環。著名アスリートによる講演会などを通じ、中高生の才能を伸ばすことを目的に全国で行っている活動で、八戸での開催は初めて。北澤さんは講演で、自身の経験を踏まえ「自分の目標や行き先を明確にすることが大切」と強調。「目標に向かって取り組んだ時間は今後の人生に生きてくる。今しかない高校生活を大切にしてほしい」とエールを送った。参加した選手とマネージャーら約70人は、元アスリートの言葉に真剣に聞き入り、目標に向かって努力することの大切さを学んだ。</p>

ゆっくり、じゅっくりと。

なごう 小さな 芸術祭

2018

10.20 SAT - 11.11 SUN

期間中の金・土・日開催
(平日も開催可能なプログラムあり)

📍 青森県八戸市南郷地域

主催：八戸市、株式会社アート&コミュニティ（八戸市南郷文化ホール指定管理者）
助成：平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人自治総合センター（演劇公開「くじらむら」）
お問合せ：八戸市南郷文化ホール
〒031-0111 青森県八戸市南郷大字野沢字中市野沢24-1
Tel:0178-60-8080 Mail:75info@nangoartproject.jp



ゆっくり、じっくりと。

なんごう 小さな 芸術祭



STORY

青森県八戸市にある、

旧南郷村だった人口5300人ほどの地域、「南郷」。

アートプロジェクトの立ち上がりから、

7年の歳月をかけてじっくりと少しずつこの地域と出会い、

アートを通して私たちがこれまでにあつめた「南郷」を、

より多くの人に知っていただくために、

2018年秋、「小さな」芸術祭を聞くことにしました。

芸術祭と言ってもアート作品は多くありません。

作品があること以上に、

地域を楽しむ、地域と出会った先にある、

地域とアートが等価にあるような

まだ小さいけれど光り輝く、ここにしかない表現を、

ゆっくり、じっくり楽しむ、小さな芸術祭です。



TOUR

作家のアトリエを訪ねるツアーや、舞踏公演と地元の農家を訪ねるツアーなど、公演や展示等のアートと、地域を楽しむ体験プランを合わせたバスツアーを開催します。

日程：10月20日(土)、26日(金)、27日(土)、
28日(日)、11月4日(日)、9日(金)、
10日(土)、11日(日)

申込：来店、電話、FAX、メール、専用WEBサイトよりお申込みください。

(株)日本旅行東北八戸支店 (9:30～12:00、13:00～17:30、土日祝休)

TEL: 0178-44-2241 FAX: 0178-43-1067

MAIL: hachinohe_net@nta.co.jp WEB: <http://va/apollo.nnta.jp/nango-art/>

MAIN PROGRAM

そばにりんごに、紅葉に。南郷が一番「熟す」この季節。
日毎に変わる「今日の南郷」に出会うプログラムをお楽しみください。

郷土をみつめる。

中屋敷法仁演劇公演「くじらむら」



【公演/有期】

南郷の捕鯨漁をテーマにした
新作演劇作品

10月27日(土) 17時30分開演
28日(日) 13時30分開演

八戸市南郷文化ホール

作・演出：中屋敷法仁(劇団柿喰う客代表)

芸をみつめる。

南郷紅白大演会



【公演/無期】

南郷の芸達者とダンサーたちの
一日限りの競演

10月20日(土) 13時30分開演

八戸市南郷公民館

出演：TABATHA(ダンス集団)、
まだこばやし(和太鼓+ダンスユニット)、
南郷歌謡愛好会ほか

大駱駝艦舞踏公演「おじょう藤九郎さま」



【公演/有期】

民俗芸能「えんぶり」を
独自の解釈でとらえた舞踏作品

11月3日(土) 17時30分開演
4日(日) 13時30分開演

八戸市南郷文化ホール

振付・演出：田村一行(大駱駝艦)
出演：大駱駝艦 監修：蓋赤兒

すまもり村の収穫ショー



【イベント/無期】

700年の歴史を持つ田んぼの
収穫祭を舞台にした
音楽ライブやダンス

11月11日(日)

①11時30分開演 ②13時開演

島守地域内田んぼ

出演：森下真樹(ダンサー)、
沢代キュートン(ボーシングユニット)

ブレ企画

10/7(日) 大駱駝艦・田村一行がマチニワにやってくる!
①12時~12時20分 ②16時30分~18時30分

色をみつめる。

なんごう彩り研究所



【イベント/有期】

南郷の「四季の色」をみつめた
染色作品

10月20日(土)~11月11日(日)
8時30分~16時30分

館のやかた ※月曜休館

アーティスト：岡村美(染色作家)

制作：岡村美+なんごう彩り研究所参加者

物語をみつめる。

なんごうカルタ



【展示/無期】

カルタの原画や写真から見る
地域の「小さな物語」

10月20日(土)~11月11日(日)
9時~17時

朝もやの館※月曜休館

アーティスト：佐良巧(画家)、
ばびみほこ(ライター)、
綿屋雄士(写真家)

アイデアをみつめる。

なんごう プレゼンテーション

10月6日(土)~10月21日(日)
10時~20時
八戸ブックセンター ※火曜休館

【展示/無期】

南郷の資源に着想を得た、
地域を魅せるプラン展

10月26日(金)~11月11日(日)
9時~17時
八戸市南郷文化ホール ※月曜休館

ディレクション：福市一寛(アートディレクター)

食をみつめる。

南郷のおうち



【展示/有期】

南郷の食が味わえる、
とあるおばあちゃんのおうち

10月20日(土)~11月11日(日)
の金土日 10時~16時

島守地域内住宅

アーティスト：EAT & ART TARO
(現代美術家)

知恵をみつめる。

ローカルアート ミーティング

11月2日(金)
19時~20時30分

八戸ポータルミュージアムはっち

ゲスト：宮本武典(東北芸術工科大学教授)、

「土地に根ざしたアート」
を考えるトークイベント

矢部佳家(西倉津国際芸術村ディレクター)

EVENT SCHEDULE

10.20 SAT	13:30	南郷紅白大演会 (無料)	南郷公民館
10.21 SUN	9:00	染色ワークショップ 「秋の色でスカーフを染める。」 (有料)	南郷公民館
10.27 SAT	10:30 ~19:30	紅葉を楽しむ。ー不習ピクニック (有料プログラムあり)	市民の森不習岳
	17:30	演劇公演「くじらむら」 (有料)	八戸市南郷文化ホール
10.28 SUN	13:30	演劇公演「くじらむら」 (有料)	八戸市南郷文化ホール
11.2 FRI	18:30	トークイベント 「ローカルアートミーティング」 (無料)	八戸ポータルミュージアムはっち
11.3 SAT	13:00	南郷の工場ウォーク (無料)	世増ダムほか
	17:30	舞踏公演「おじょう藤九郎さま」 (有料)	八戸市南郷文化ホール
	18:30	bar スマモリ (有料)	山本さんち (島守)
11.4 SUN	13:30	舞踏公演「おじょう藤九郎さま」 (有料)	八戸市南郷文化ホール
11.10 SAT	13:30	音楽と朗読のライブ「なんごうの物語」 (無料)	ジャズの館 南郷
11.11 SUN	11:30 13:00	すまもり村の収穫ショー (無料)	島守地域内田んぼ
10.20 SAT ~ 11.11 SUN の土日 10:00~16:00		現代アート展「INCIDENTS in NANGO」 (無料) アーティスト：池田拓馬、佐貫巧、しばやまいぬ、東方悠平、皆川俊平	頃巻沢公民館
【関連企画】			
10.17 WED ~ 11.6 TUE 9:00~21:00 (10.28を除く)		PR展 「なんごう小さな芸術祭のはじまり展」 (無料)	八戸ポータルミュージアムはっち
【連携企画】 (平成30年度多文化都市八戸推進事業補助金交付事業)			
【ライブ】 主催：ジャズコネクト実行委員会			
10.20 SAT	15:30	NANGO JAZZ CONNECT Vol.2 (有料)	ジャズの館南郷
【展示】 主催：AIR-H			
10.20 SAT ~ 11.11 SUN の土日 10:00~16:00		Port to Port #2 (AIR Hachinohe) (無料) アーティスト：デンバー・ガルーサ+zinezines	頃巻沢公民館

※イベントによって、申込みの有無、料金が異なります。詳細は公式HPやガイドブック（10月上旬配布予定）をご覧ください。

<http://nangoartproject.jp>